

# 様式 C - 7

## 平成16年度科学研究費補助金実績報告書(研究実績報告書)

1. 機関番号 3:4:5:1:3 2. 研究機関名 神戸松蔭女子学院大学

3. 研究種目名 基盤研究(A)(1) 4. 研究期間 平成15年度～平成18年度

5. 課題番号 1:5:2:0:2:0:0:9

6. 研究課題名 日常的推論の論理と言語形式: 量化表現、条件文、モーダル表現を中心として

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1:0:1:5:8:8:9:2	フガナ グンジ, タカオ 郡司, 隆男	神戸松蔭女子学院大学・文学部	教授

8. 研究分担者(所属機関名については、研究代表者の所属機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
7:0:2:6:3:9:9:4	フガナ アリタ, セツコ 有田, 節子	大阪樟蔭女子大学・学芸学部	助教授
2:0:2:1:3:2:3:3	フガナ イマニ, イクミ 今仁, 生美	名古屋学院大学・外国語学部	教授
1:0:1:5:4:9:5:7	フガナ タクボ, ユキノリ 田窪, 行則	京都大学・大学院文学研究科	教授
0:0:2:7:3:7:1:4	フガナ マツイ, ミチナオ 松井, 理直	文学部	助教授
6:0:1:8:1:9:3:9	フガナ ミトウ, ヒロシ 三藤, 博	大阪大学・大学院言語文化研究科	助教授

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

本研究は、推論および推論に関わる言語形式の研究を通じて、日常言語における推論がどのような形でなされるのかを考察し、論理形式と日常言語との相関関係を探求することを目的としている。

本年度は、前年度の研究成果を踏まえ、日本語、英語およびドイツ語などの西欧語、韓国語のコーパスから、採集、分類した、日常的推論、量化表現、条件文、モーダル表現に関わる言語現象を理論的に考察した。さらに海外共同研究者との討議の場として、以下を実施した。

- 9月下旬に、日本側分担者の一部が、海外研究協力者の Sells の所属する Stanford 大学を訪問し、1週間程度集中討議をする場を設けた。この場では、前年度の各人の予備的な考察から出てきた問題点を整理し、今後の各人の分担をより明確化することを目的とした。
- 1月下旬に、海外共同研究者および他の海外からの研究者と、京都大学で1週間程度、共同討議する場を設けた。これは西欧語の分析を中心とした。
- 2月下旬に、Sells および韓国側の海外研究協力者を中心として、日本語と韓国語の対照言語学的研究の集中的討議の場を設けた。また、次年度の計画の練り直しをおこなった。

本年度は前年度に収集した基礎的なデータの整理・分析に重点を置いたが、次年度に向けて、それを、一般的、普遍的な形の理論としてまとめることに着手した。特に、日本語と他言語の共通点と相違点を明らかにし、それが、言語の普遍性と個別性の問題とどう関わるかを考察した。

成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書き1枚)を添付すること。

10. キーワード

- |             |             |            |
|-------------|-------------|------------|
| (1) 推論      | (2) 日常言語    | (3) 論理形式   |
| (4) 量化表現    | (5) 条件文     | (6) モーダル表現 |
| (7) 国際研究者交流 | (8) アメリカ・韓国 | (裏面に続く)    |

11. 研究発表(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。)

〔雑誌論文〕

著者名	論文標題			
有田 節子	「どうせ」「いっそ」の用法と既定性			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』	13	2005	未定	—

著者名	論文標題			
Takarajima, I., K. Akama, I. Imani, and H. Mabuchi	Design of termination for non-deterministic programs based on the equivalent transformation computation model			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Technologies (InTech 2004), Houston Texas</i>		2004	226	— 235

著者名	論文標題			
今仁 生美・宝島 格	視覚動詞と状況 - 視覚による情報抽出の分析			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』	16巻2号	2005	1	— 17

著者名	論文標題			
坊農 真弓・鈴木 紀子・片桐 恭弘	多人数会話における参与構造分析			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『認知科学』	11巻3号	2004	214	— 227

著者名	論文標題			
Gunji, Takao	Measurement and quantification revisited			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin</i>	No. 8	2005	21	— 36

著者名	論文標題			
坂原 茂	書評: 西山佑司著『日本語名詞句の意味論と語用論—指示名詞句と非指示名詞句—』			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『日本語の研究』	1巻2号	2005	未定	—

〔図書〕

著者名	出版者		
田窪 行則	朝倉書店		
書名	発行年	総ページ数	
『世界の中の日本語』(早田輝洋編) 日本語の文構造: 語順を中心に	2005	印刷中	

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日

11. 研究発表(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。)

〔雑誌論文〕

著者名	論文標題			
MATSUI, Michinao	Prototypical features of phonetic/phonological categories			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Journal of Japanese Linguistics</i>	20	2004	41 — 50	

著者名	論文標題			
松井 理直	日本語五母音における音響的特徴の再検討			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『プロソディーの多様性と普遍性に関する総合的研究』	(3)	2005	50 — 58	

著者名	論文標題			
松井 理直	計算論的関連性理論における日本語条件文の解釈			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
<i>Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin</i>	No. 8	2005	53 — 81	

著者名	論文標題			
松井 理直	計算論的関連性理論による反実仮想解釈の検討			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『日本認知科学会第 21 回大会発表論文集』		2004	312 — 313	

著者名	論文標題			
松井 理直	確率論に基づく条件文の解釈			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『日本心理学会第 68 回発表論文集』		2004	857 — 857	

著者名	論文標題			
三藤 博	定名詞句解釈の関数アプローチ再説			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
『自然言語への理論的アプローチ - 意味編 - 』(言語文化共同研究プロジェクト 2003)		2004	27 — 36	

〔図書〕

著者名	出版者			
片桐 恭弘・片岡 邦好(編)	ひつじ書房			
書名	発行年	総ページ数		
講座社会言語科学第 5 巻『社会・行動システム』	2005	印刷中		

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日